

## 日本の伝統文化と美意識

### 2019 年本試

問 4 日本の芸道や生活における美意識についての説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。 23

- ① 「幽玄」は、世阿弥が大成した能楽において重んじられた、静寂のなかに神秘的な奥深さを感じとる美意識である。
- ② 「さび」は、松尾芭蕉が俳句を詠むなかで追求した、閑寂・枯淡のなかに情趣を見いだして安らぐ美意識である。
- ③ 「つう(通)」は、世事や人情の機微を深く理解することを良しとする美意識であり、近世の町人の間に広まった。
- ④ 「いき(粋)」は、武骨で垢<sup>あかぬ</sup>抜けない素朴さを良しとする美意識であり、勤労と儉約を貴ぶ近世の町人によって生み出された。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 4	23	④	2

2017 年本試

問 3 次のア～ウは、美術の分野で活躍した芸術家の作品と思想についての説明であるが、それぞれ誰のものか。その組合せとして正しいものを、次の①～⑧のうちから一つ選べ。 3

ア 代表作「春」、「ヴィーナスの誕生」などで、躍動する生命と自由に生きる人間の美を生き生きと描き出し、人文主義の精神を体現した。

イ 坐禅で得た寂静の境地を表現したとされる山水図などの作品で、墨の濃淡だけで枯淡や幽玄の美を描き、水墨画を日本において大成した。

ウ ナチス・ドイツによる一般市民への無差別爆撃を描いた壁画「ゲルニカ」を発表し、人類の引き起こす戦争の悲惨さや残虐さを告発した。

- |   |   |         |   |      |   |     |
|---|---|---------|---|------|---|-----|
| ① | ア | セザンヌ    | イ | 尾形光琳 | ウ | ゴッホ |
| ② | ア | セザンヌ    | イ | 尾形光琳 | ウ | ピカソ |
| ③ | ア | セザンヌ    | イ | 雪舟   | ウ | ゴッホ |
| ④ | ア | セザンヌ    | イ | 雪舟   | ウ | ピカソ |
| ⑤ | ア | ボッティチェリ | イ | 尾形光琳 | ウ | ゴッホ |
| ⑥ | ア | ボッティチェリ | イ | 尾形光琳 | ウ | ピカソ |
| ⑦ | ア | ボッティチェリ | イ | 雪舟   | ウ | ゴッホ |
| ⑧ | ア | ボッティチェリ | イ | 雪舟   | ウ | ピカソ |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 3	3	⑧	3

2014 年本試

問3 下線部 c に関連して、次のア～ウは、文芸や芸術の分野で、美について思索した人物について説明したものである。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 22

ア 吉田兼好は、『徒然草』を著し、今にも花が咲きそうな梢<sup>こずえ</sup>や、花が散った後の庭に、見所があると述べ、世の中は無常であるがゆえに、「あはれ」があるのだと主張した。

イ 世阿弥が大成した能楽は、「幽玄」を理念としていた。世阿弥は、『風姿花伝』（『花伝書』）を著し、演技者が目指すべき有り様を「花」に譬<sup>たと</sup>えながら、演技者としての心得を説いた。

ウ 千利休が大成した茶道では、「わび」の精神が重んじられた。「わび」とは、華麗なものにも簡素なものにも、ひとしく無常と美を見いだし、そこに安らぎを覚えようとする精神のことである。

- |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ② | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ③ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ④ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 誤 |
| ⑤ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ⑥ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ⑦ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ⑧ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 誤 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問3	22	②	3

2007 年追試

問 4 芸道における美意識のあり方として、「わび」や「さび」がある。「わび」もしくは「さび」についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 16

- ① 世阿弥は能に「わび」の精神を取り入れた。その結果、表現を徹底的に切りつめることが至上の美しさを生むという考えが能に定着した。
- ② 千利休が創始した茶道は、村田珠光によって「わび茶」として大成された。「わび茶」の理想は、簡素さにおいて一期一会の茶をもてなすことであった。
- ③ 松尾芭蕉は、新たな俳諧の道を切り開こうとして、旅に生きた。その結果、内面的な閑寂かんじやくさとしての「さび」の境地が獲得された。
- ④ 与謝野晶子は「さび」を男女間の静かな情熱として肯定的に捉え直し、和歌に詠んだ。それにより歌道の新境地が開かれた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 4	16	③	3

2004 年本試

問 5 日常を新たに捉え直す思想を抱いた人々のうち、井原西鶴と本居宣長の考えとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。井原西鶴については25に、本居宣長については26に答えよ。

- ① 現実の世界は抽象的な理では捉えきれない、生き生きと生成する一大活物<sup>かつぎつ</sup>である。日常的な行為や心情も活物としての人間の働きであり、その中に条理がある。
- ② この世は「憂き世」ではなく、「浮き世」である。眼前の日常生活の中で、日々様々な快樂や富を追求するところにこそ、人間の生のありのままの姿がある。
- ③ 日常的な欲望や感情は、「やむを得ざる」自然なものであり、朱子学のように否定的に見てはならない。日常にかかわる道を行うことで、優れた治者たりうる。
- ④ 人間は、日常的な人間関係において愛敬の心を働かせている。それが普遍的な「孝」である。「孝」は人間関係のみならず、万事万物を貫いている道理でもある。
- ⑤ 日常生活において、物事に触れたときに生じる、楽しい、悲しい、恋しい、憎いなどの感嘆こそ本来的な心の働きである。人間は感嘆によって物事の本質を知る。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 5	25	②	3
第 3 問	問 5	26	⑤	3